

<b>1 学校教育目標</b> 確かな学力、豊かな心、健やかな体 (知・徳・体のバランスのとれた力をはぐくむ)	<b>2 本年度の重点目標</b> (1) きめ細やかな指導による児童一人一人の学力の更なる向上 ○知識・技能の確実な習得と思考力・判断力・表現力の育成 ○新学習指導要領全面実施(H32)に向けた移行期の確実な対応 ○読書の奨励 (2) 歯と口の健康づくり推進 ○1年次研究の成果を踏まえた校内研究の更なる充実 ○研究発表会に向けた研究体制の充実 (3) 人権・同和教育の推進 ○いじめの未然防止と一人一人を尊重する教育 ○全面実施となる道徳科との連携 (4) 地域と連携した「地域ぐるみ」の教育活動の充実 ○地域人材を活用した授業・行事の推進 ○地域を学ぶ教育活動の推進 (5) 働きやすい職場環境づくり ○人間関係の質の更なる向上と、目指す方向性や必要な情報の共有化 ○業務の効率化・適正な勤務時間の管理と、業務の質の維持・向上の両立
---	---

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価						
① きめ細やかな指導による児童一人一人の学力の更なる向上						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
学校運営	○教職員の資質の向上	分かる授業づくり	・児童へのアンケート調査「授業は分かりやすいですか。」の割合を、4段階評価で3.8以上に ・職員へのアンケート調査「子どもたちにとって、分かりやすい授業に努めていますか。」の割合を、4段階評価で3.8以上に	・研究授業等で、児童が分かる授業の進め方を研究するとともに、少人数のよさを生かした個に応じた声かけやきめ細やかな指導を工夫する。 ・日々の授業において、児童が分かる授業や意欲的に取り組む授業を目指し、電子黒板を有効に活用する。 ・「授業づくりのステップ1, 2, 3」を活用して、日々の授業改善に努める。	管理	野中
	●学力の向上	個に応じた指導の徹底 読書活動の充実	・国語科及び算数科の基礎・基本の定着を図る。その上で、県調査の4教科の正答率を、少なくとも「おおむね達成」以上に ・1～3年実施のCRTIにおいて、全国平均以上に ・マイライブラリーカードを全員が作成し、学年別に設定した目標冊数(1, 2年(3冊)、3, 4年(6冊)、5, 6年(9冊))を達成する。	・スキルタイムを週2回設定し、全職員で担当学年の指導を行う。 ・児童が、自分の考えや思いを表現できるように、全教科の授業で取り組んでいく。 ・年に2回、読書推奨週間を設ける。マイライブラリーの達成度や読書冊数などを適宜、把握し、個別指導をする。	教務	寺田 武田
教育活動	○家庭との連携	家庭における学習習慣の定着	・児童へのアンケート調査「毎日、家で勉強していますか。」の割合を、4段階評価で3.8以上に ・保護者へのアンケート調査「お子さんが宿題や読書の習慣がつくように努めていますか。」の割合を、4段階評価で3.3以上に	・各学年の目標時間を意識させ、家庭学習の取組に対する評価及び指導を継続して行う。 ・学級懇談会や学級通信などで、定期的に連絡をする。宿題忘れが続いた場合は、家庭へ連絡し、協力をお願いする。 ・県教委作成の「家庭学習の手引き」を活用して、家庭訪問時に習慣化に向けての協力を依頼する。	低学年	竹崎 浦田
② 歯と口の健康づくり推進						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
教育活動	●健康・体づくり	体力の向上	・教育活動全般を通じて、運動・スポーツを好み、めあてを持って体力向上に取り組む児童を育てる。 ・児童へのアンケート調査「持久走やなわとびをして、体力がついたと思いますか。」の割合を、4段階評価で3.6以上に	・新体力テストの結果を受けて、体力向上に向けためあてを立てる。 ・健康タイムや業間の持久走タイム、大なわとびの練習に全校で取り組む。	健康	今井
		基本的な生活習慣の定着 (歯と口の健康)	・自分の健康の保持・増進のために、自らの問題として考え、行動し習慣化するようにする。 ・児童へのアンケート調査「朝や夜(夕方)など、家での歯みがきがきちんとできていますか。」の割合を、4段階評価で3.6以上に ・保護者へのアンケート調査「お子さんは、生活のリズムが正しくできていると思いますか。」と、「よい生活習慣や食習慣がつくように努めていますか。」の割合を、4段階評価でそれぞれ3.2以上に	・毎学期、基本的な生活習慣の定着についてのアンケートを実施し、その結果を家庭と共有して、保護者と連携しながら個に応じた指導を行う。	研究	石井 牧山
③ 人権・同和教育の推進						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
教育活動	●心の教育	全教育活動における道徳教育、人権・同和教育、特別支援教育の実践	・なかよし人権教室のときは、その内容と関連させた道徳の授業を毎回実施する。 ・部落問題学習を各学年で、部落史学習を6年で行うことができるよう計画を立て、確実に実践する。 ・定期的に実施する「こころのアンケート」において、自分がかんがっていることやできるようになったことを記述する欄を設け、肯定的な記述ができる児童の割合を80%以上に	・「いのち」「なかみ」「共生」の視点で、全職員が分担して、なかよし人権教室を企画・実施する。 ・部落問題等を自己の問題として捉えさせるような教材の開発や指導の改善を図る。 ・肯定的な記述が十分にできなかった子どもについては、アンケート実施後に必ず声かけを行い、その子どものかんがりを認め、褒め、励ますように	人権・同和教育 (道徳教育)	井上 石井
	●いじめの問題への対応	いじめを許さない学級づくり	・児童へのアンケート調査「学校は楽しいですか」と、「学級・学校に友達がいまいますか」の割合を、4段階評価でそれぞれ3.7以上に ・児童へのアンケート調査「悲しんだり悩んだりしている友達がいいたら、声をかけましたか」の割合を、4段階評価で3.6以上に	・児童理解研修、「こころのアンケート」、Q-Uの結果を活用して、児童の心の状態をこまめに把握し、その情報を職員間で共有するとともに、必要に応じて適時・適切に対応をする。	人権・同和教育	井上
④ 地域と連携した「地域ぐるみ」の教育活動の充実						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
教育活動	○体験活動の充実	米作りやそば作りなどの体験活動	・学習計画に基づいた体験活動を実施する。(1, 2年…さつまいも作り 3年…そば作り 4年…豆腐作り 4, 5年…もち米作り) ・児童へのアンケート調査「体験活動をして、頭だけではなく身体も使って学ぶ大切さが分かりましたか。」の割合を、4段階評価で3.6以上に	・各学年で、種まきから収穫までの継続した体験活動を行う。 ・前年度の反省を踏まえて、今年度の内容を活動の効率化、簡素化と学習の質の向上という2つの視点から、適宜見直し、改善していく。 ・自分たちの活動を振り返り、振り返ったことを次に生かすような学びの連続性を意識して活動を行う。	中学年	加茂 今井
学校運営	○開かれた学校づくり	学校情報の発信 地域人材の活用	・年間50号を目安に「学校だより」を発行し、学校の教育活動や児童の学習の様子などを家庭や地域に発信する。 ・学校HPの更新回数を増やすとともに、学校HP閲覧を「学校だより」等で保護者等に呼びかけるなどして、各記事の閲覧回数が前年度を上回るようにする。 ・各学年とも、年に1回程度は、授業や学校行事に地域の人材を活用するようにし、教育効果を高める。	・日常的に学校の教育活動の情報収集に努めるとともに、学校行事の様子なども適時に「学校だより」で発信できるようにする。 ・学校HPの「工事中」のページを計画的に減らしていくとともに、イベントギャラリーに週に3回程度は記事を投稿する。 ・学級担任と連携しながら、見直しをもって計画的に地域人材を活用できるようにする。	管理	校長
本年度の重点目標に含まれない共通評価項目						
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	業務効率化の推進 多忙感解消	・各担当業務の情報共有を強化する。職員へのアンケート調査「共有フォルダを利用し、データの共有化に努めた」の割合を、4段階評価で3.5以上に ・毎週金曜日を定時退勤日に設定し、徹底を図る。職員へのアンケート調査「管理職は、職員が定時に退勤できるよう働きかけを行ったか」の割合を、4段階評価で3.8以上に	・校務用サーバに共有フォルダを作成し、データの共有化を行い、教材作成や学級事務等の効率的な業務遂行に努める。 ・管理職が、業務の進捗状況を適時尋ねるなど積極的な声かけを行い、金曜日における定時退勤を確実に実施できるようにする。	管理	校長 野中